

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

26年7月の牛肉卸売価格は前年同月をわずかに下回る

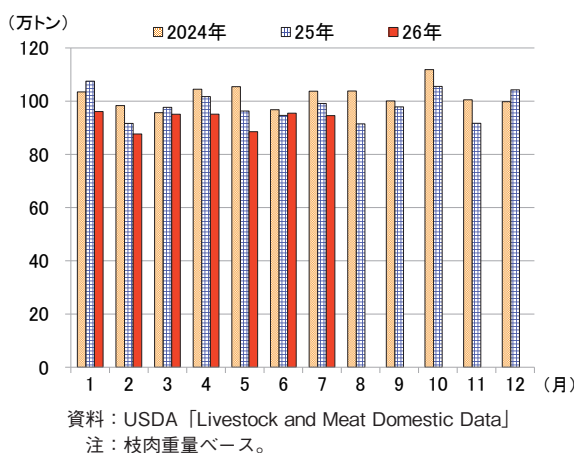
26年7月の牛肉生産量は前年同月比4.6%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年7月のフィードロット導入頭数は142万2000頭（前年同月比11.0%減）とかなり大きく減少した。出荷頭数も162万頭（同7.4%減）とかなりの程度減少した。この結果、同年8月1日時点のフィードロット飼養頭数は1111万7000頭（同1.8%減）となった。

同年7月の牛と畜頭数は、236万5000頭（同6.8%減）とかなりの程度減少した。同月の1頭当たり枝肉重量は401.9キログラム（同2.3%増）とわずかに増加したものの、と畜頭数減少の影響が上回ったことにより、同月の牛肉生産量は94万6000トン（同4.6%減）となった（図1）。

26年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から14万6000トン引き下げた1132万5000トン（前年比4.0%減）と見込んでいる。

図1 牛肉生産量の推移



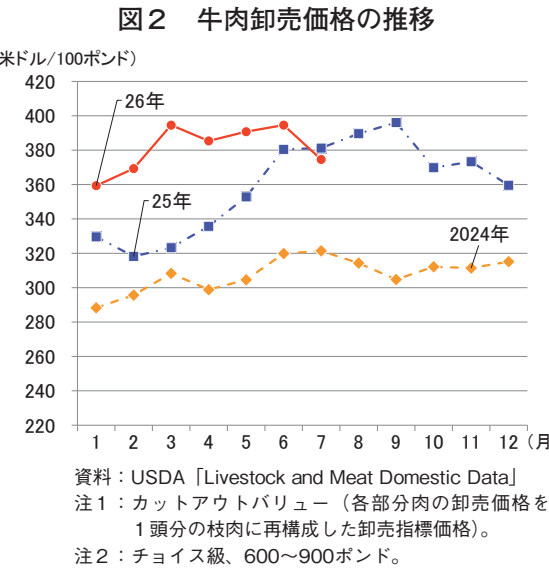
26年7月の牛肉卸売価格は前年同月をわずかに下回って推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年7月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、100ポンド当たり374.6米ドル（1キログラム当たり1330円：1米ドル＝161.02円^{（注2）}、前年同月比1.7%安）と前年同月をわずかに下回った（図2）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同230.0米ドル（同816円、同4.3%安）と前年同月をやや下回った。

肥育牛価格の下落については、独立記念日（7月4日）以降の季節的な牛肉需要の落ち着きなどによる卸売価格の下落に加え、肥育牛

先物市場における投機資金の利益確定売りが進み、相場の下落が加速したことが影響しているとみられている。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。



26年6月の牛肉輸出量は前年同月比8.6%減

USDA/ERSによると、2026年6月の牛肉輸出量は9万305トン（前年同月比8.6%減）とかなりの程度減少した（表）。この背景には、米国における牛肉生産量の減少や価格の上昇に伴う価格競争力の低下のほか、日本や韓国などのアジア市場で米ドル高の傾向や消費者の節約志向が見られることなどがある。また、中国向けについては、同年5月15日に米国内の牛肉輸出認可施設の更新が行われ、徐々に輸出量は回復傾向にあるものの^(注3)、同月は1,510トン（同60.6%減）にとどまった。

26年の牛肉輸出量についてUSDAは、牛肉生産量の減少や直近の輸出動向を踏まえ、105万8000トン（前年比9.5%減）とかなりの程度減少すると見込んでいる。

(注3) 5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月以降、GACCによる牛肉の輸出施設の大部分について未更新の状況が続いていた。詳細については、海外情報「米中は農畜産物貿易の拡大に合意、牛肉輸出認可施設の登録も更新（米国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004361.html)をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
韓国	24,186	22,346	▲7.6%	24.7%	137,567	▲11.5%
日本	23,506	21,284	▲9.5%	23.6%	122,636	▲17.8%
メキシコ	11,518	9,162	▲20.5%	10.1%	59,126	▲16.7%
カナダ	10,029	8,089	▲19.3%	9.0%	46,880	▲12.5%
台湾	8,619	7,559	▲12.3%	8.4%	38,429	0.1%
香港	4,174	5,690	36.3%	6.3%	36,258	74.5%
中国（参考）	3,829	1,510	▲60.6%	1.7%	4,716	▲92.7%
その他	12,952	14,665	13.2%	16.2%	88,541	9.1%
合計	98,813	90,305	▲8.6%	100.0%	534,154	▲15.8%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部)

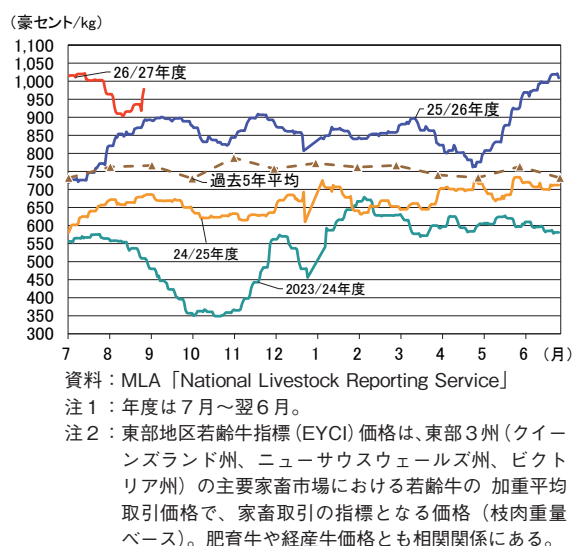
豪州

牛価格は需給緩和で調整局面、中国の関税措置を受け輸出先の再編に注目

若齢牛価格は下落傾向、輸出市場の変化を受け調整局面へ

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2026年8月26日時点で1キログラム当たり978豪セント（1141円：1豪ドル＝116.65円^{（注1）}）と、一時的に上昇しているものの、7月中旬以降は全体として下落傾向が続いている（図1）。

図1 EYCI価格の推移



現地アナリストによると、この価格下落は、主要輸出先である中国と韓国の豪州産輸入牛肉に対するセーフガード（以下「SG」という）の発動という輸出市場の不透明感に市場が反応した結果とされている。また、今後の見通しについては複数の見解が示されているが、米国向けをはじめとする輸出需要は依然として堅調であることから、現状の肉牛価格の動向は長期的な下降トレンドへの転換ではなく、

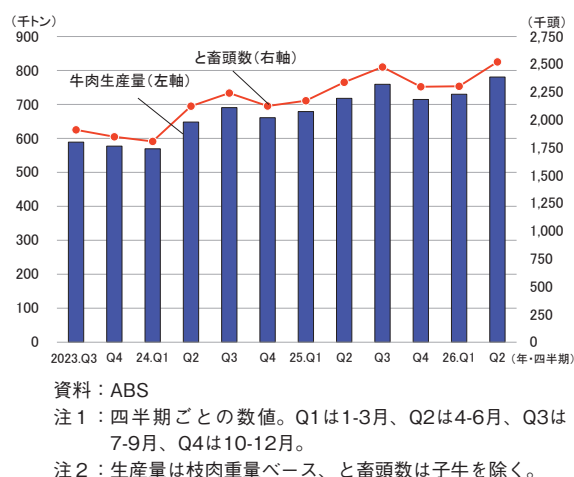
市場が今後の方向性を見極める調整局面に入ったことによるものと分析している。

（注1）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

豪州のと畜頭数は約50年ぶりの高水準、牛肉生産量は過去最高を更新

豪州統計局（ABS）が公表した統計によると、2025/26年度（7月～翌6月）の豪州の成牛と畜頭数は959万7200頭（前年度比8.1%増）と1978年以来の高水準となり、牛肉生産量は298万5000トン（同8.6%増）と過去最高を更新した（図2）。MLAは、ここ数年の恵まれた天候による牛群頭数の増加や、堅調な豪州産牛肉に対する需要が記録更新に寄与したと説明している。

図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移

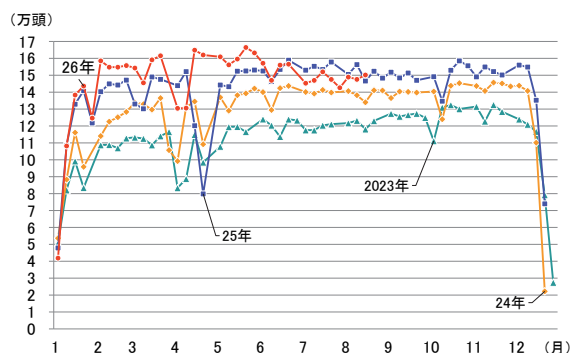


直近となる26年8月第3週の成牛と畜頭数は、15万172頭（前年同期比2.4%増）と前年同期を上回ったが、7月以降は減少傾向に転じている（図3）。しかしながら、現地

報道は、複数の食肉加工処理業者がと畜の予約状況などから需給の緩和を感じているものの、9月以降の予約は十分確保されており、今後も現在の水準が維持される見通しとして

いる。なお、業界では加工処理コストの上昇が懸念事項として浮上しており、国際競争力の維持・向上に向けて、官民一体となった取り組みの重要性が指摘されている^(注2)。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

（注2）詳細については、海外情報「高まる豪州の牛肉加工コスト、競合国との差は縮まるも規制面に課題（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004415.html）をご参照ください。

26年7月の牛肉輸出は底堅く推移、日・米・韓が中国向け余剰分の受け皿に

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年7月の牛肉輸出量は、14万3962トン（前年同月比4.3%減）と減少したものの、依然として底堅い需要を示している（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 7月	26年 7月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
米国	43,056	47,989	11.5%	291,186	18.3%
韓国	20,869	29,068	39.3%	171,071	39.8%
日本	23,056	26,135	13.4%	150,261	6.7%
東南アジア	12,859	12,383	▲3.7%	68,617	▲14.2%
中国	30,925	6,458	▲79.1%	147,603	▲7.9%
中東	3,425	5,417	58.2%	24,728	16.3%
EU	3,075	2,337	▲24.0%	17,903	35.0%
その他	13,170	14,175	7.6%	77,972	13.6%
輸出量合計	150,435	143,962	▲4.3%	949,341	11.3%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

輸出先別に見ると、上位3市場のうち米国向けは4万7989トン（同11.5%増）、韓国向けは2万9068トン（同39.3%増）、日本向けは2万6135トン（同13.4%増）と、いずれも大きく増加した。SG^(注3)の発動により、

中国向けが6458トン（同79.1%減）と大幅に減少する中、これらの市場が受け皿として機能したとされている。特に日本は、信頼性の高い牛肉市場として、その重要性が改めて認識された。

今後の見通しについては、7月21日に発動した韓国の豪州産牛肉に対するSG^(注4)の影響に加え、中国向け輸出の減少に伴う輸出先の再編がどのように進むのか注目されている。また、米国ホワイトハウスは現地時間の8月26日、米国の消費者に手頃な価格の牛肉を供給するため、牛ひき肉製品に対する輸入関税を90日間停止すると発表した。発表内容によると、同措置は9月1日から適用され、月間最大10万トンを上限に先着順に割り当てられる。また、米国内でひき肉に転用される正肉は対象とならず、輸入時点でひき肉になっているものが対象となる。豪州産牛肉については、豪米自由貿易協定（FTA）

により、すでに米国向け輸出関税が免除されていることから、今回の措置により最大の恩恵を受けるのは、競合国で26.4%の関税が課せられているブラジルとの見方が強い。今後は、米国市場におけるブラジル産牛肉との競争環境の変化が、豪州の輸出動向を左右する重要な要因となると考えられる。

（注3）詳細については、海外情報「中国、豪州産牛肉に対しセーフガードを発動（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004383.html）をご参照ください。

（注4）詳細については、海外情報「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html）をご参照ください。

（調査情報部）

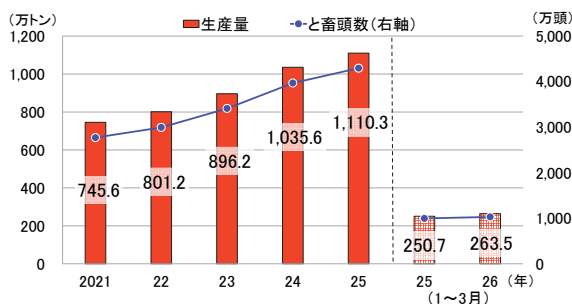
ブラジル

牛肉生産および輸出は好調ながら、中国のセーフガード措置が先行きに影響

26年1～3月の牛肉生産量は前年同期比5.1%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2026年1～3月の牛と畜頭数は1028万9000頭（前年同期比3.3%増）、牛肉生産量は263万5000トン（同5.1%増）と、いずれも過去最大を記録した前年をやや上回る水準で推移している（図1）。

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：IBGE「Pesquisa Trimestral do Abate de Animais」

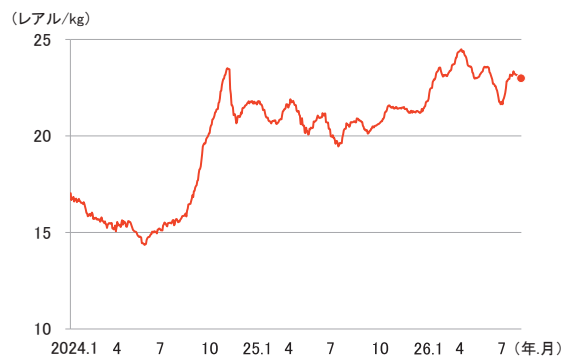
注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：2026年は速報値。

26年の肥育牛指標価格は4月中旬を境に下落傾向へ

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2026年8月19日時点の肥育牛指標価格は、1キログラム当たり22.99レアル（715円：1レアル＝31.08円^(注1)、前年同期比12.1%高）となった（図2）。

図2 肥育牛指標価格の日毎の推移



資料：CEPEA「INDICADOR DO BOI GORDO」

注：図中の最新のマーカーは、2026年8月19日1kg当たり22.99レアルを示す。

26年の年初から上昇傾向にあった肥育牛指標価格は、4月中旬に天井を打った。その後、5月下旬と7月下旬には、牛肉の輸出需要が供給を上回ったことから一時的に上昇する場面も見られたが、全体としては下落傾向で推移している。

CEPEAによると、価格下落の主な要因は、中国向け輸出需要の鈍化である。中国は、26年1月1日に輸入牛肉に対する新たなセーフガード措置の適用を開始した^(注2)。ブラジルに割り当てられた同年の枠内数量110万6000トンの65%が5月までに消化され、中国向けに牛肉を輸出する食肉加工業者は、と畜頭数を調整する動きに入ったとされている。また、ブラジル国内では、消費者の需要が牛肉から鶏肉、豚肉および卵などより安価な動物性たんぱく質へ移る傾向も見ら

れ、こうした動向も肥育牛指標価格を押し下げる要因の一つとされている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末のTTS相場および現地参考為替相場(Selling)。

(注2) 詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html)をご参照ください。

26年1～7月の牛肉輸出量は前年同期比10.2%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局(SECEx)によると、2026年1～7月の牛肉輸出量は172万2643トン(前年同期比10.2%増)と、過去最大を記録した前年をかなりの程度上回る水準で推移している(表)。

表 牛肉輸出の推移

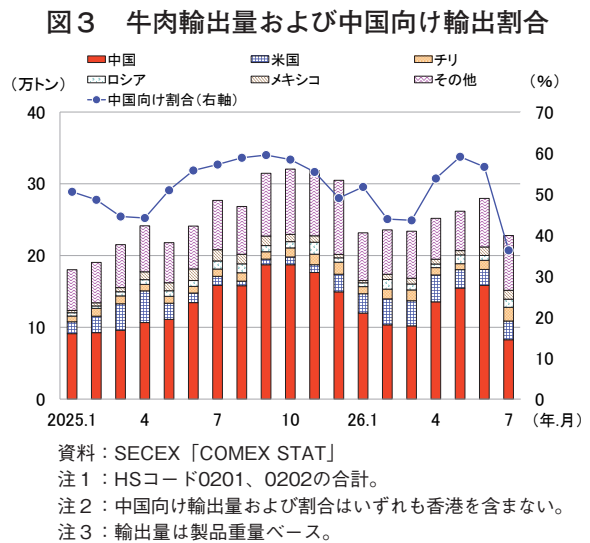
国名	2025年1～7月			26年1～7月			前年同期比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
中国	790,016	4,081,127	5.17	856,703	5,344,411	6.24	8.4%	31.0%	20.8%
米国	169,189	861,581	5.09	209,642	1,275,859	6.09	23.9%	48.1%	19.5%
チリ	68,029	369,640	5.43	88,872	539,167	6.07	30.6%	45.9%	11.7%
ロシア	47,594	220,652	4.64	62,341	317,366	5.09	31.0%	43.8%	9.8%
メキシコ	67,140	363,342	5.41	55,244	332,850	6.03	▲17.7%	▲8.4%	11.3%
フィリピン	45,043	190,849	4.24	41,052	192,142	4.68	▲8.9%	0.7%	10.5%
サウジアラビア	33,252	166,521	5.01	38,919	241,962	6.22	17.0%	45.3%	24.1%
エジプト	29,902	131,024	4.38	38,065	191,469	5.03	27.3%	46.1%	14.8%
その他	313,230	1,714,211	5.47	331,807	2,098,329	6.32	5.9%	22.4%	15.6%
合計	1,563,395	8,098,945	5.18	1,722,643	10,533,555	6.11	10.2%	30.1%	18.0%

資料：SECEx「COMEX STAT」

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

一方、前述の通り、中国向け輸出は割当数量の上限に近づいている。26年1～6月の同国向け輸出量は、各月とも前年同月を上回ったものの、7月には前年同月比47.8%減に転じており、これに伴い、牛肉輸出量全体も7月に減少に転じた（図3）。中国が導入したセーフガード措置の影響が表れ始めたものとみられる。



（調査情報部）

豚 肉

米 国

26年1～6月の輸出量は前年同期比3.4%増と堅調も、メキシコ向けは競争激化

26年7月の期末在庫量は、前年同月比8.6%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年7月の豚と畜数は、1026万3500頭（前年同月比0.0%増）と前年同月並みとなったものの、1頭当たり平均枝肉重量が97.1キログラム（同1.9%増）となったことから、豚肉生産量は99万3594トン（同1.5%増）とわずかに増加した（図1）。また、7月の期末在庫量は、19万9300トン（同8.6%増）とかなりの程度増加した（図2）。同局はこの要因として、前年度と比較して、夏季のバーベキュー需要が鈍化したことに伴い、バラ肉やハムなどの需要が軟調に推移したことを挙げている。

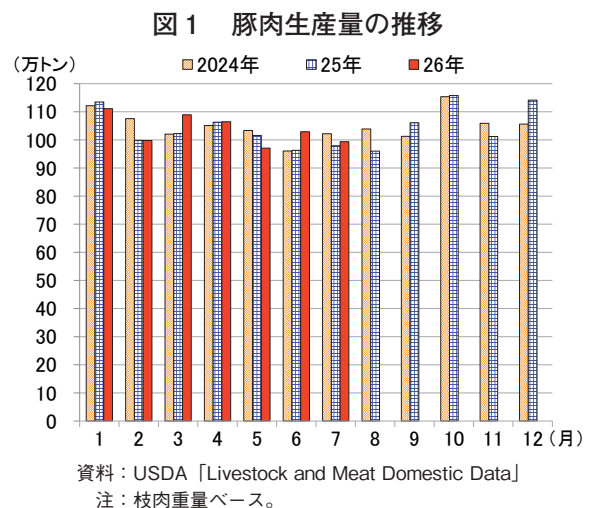
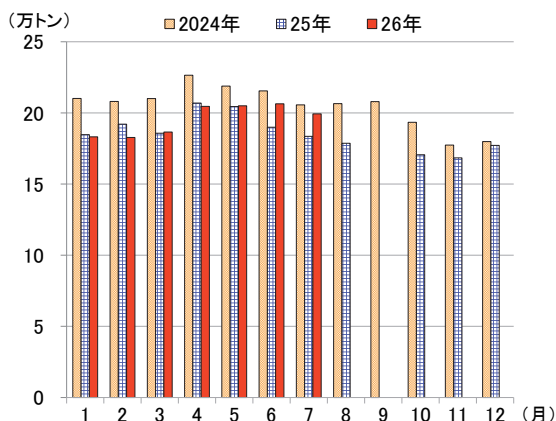


図2 豚肉の期末在庫の推移



資料：USDA「Cold Storage」

注1：各月末在庫。

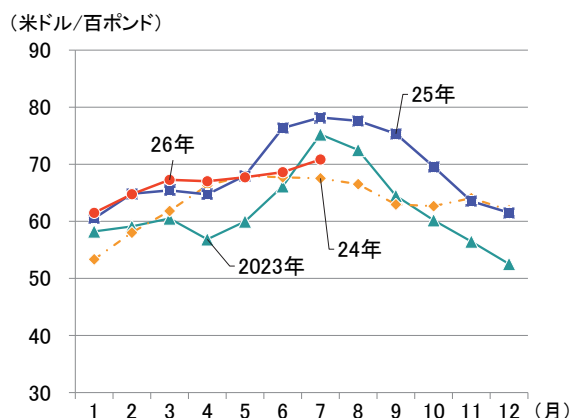
注2：2025年9月はデータの公表が無かったため、N/A。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、26年7月の肥育豚価格は、100ポンド当たり70.84米ドル（1キログラム当たり251円：1米ドル＝161.02円^{（注1）}、同9.4%安）と、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の発生による供給ひっ迫を背景に高水準で推移した前年同月からかなりの程度下落し、3カ月連続で下回った（図3）。また、同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は、同101.26米ドル（同359円、同12.0%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図4）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

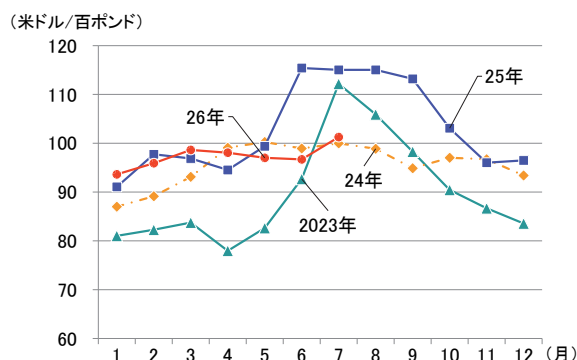
図3 肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：生産者平均価格。

図4 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：カットアウトバリュー。

26年1～6月の豚肉輸出量、前年同期比3.4%増

USDA/ERSによると、2026年6月の豚肉輸出量は、24万5025トン（前年同月比3.2%減）とやや減少した（表）。最大の輸出先であるメキシコ向けは、10万2455トン（同1.6%減）とわずかに減少、日本向けは3万9664トン（同8.4%増）とかなりの程度増加、また、韓国向けは1万7428トン（同18.0%減）と大幅に減少した。同局は、メキシコ向けが減少した要因として、競合国であるカナダおよびブラジルとの競争の激化を指摘している。

一方、26年1～6月の豚肉輸出量を見ると、163万3099トン（前年同期比3.4%増）と堅調な動きを示している。

なお、アイオワ州の養豚施設において、4月30日にオーエスキー病の発生が確認されたことを受け、メキシコおよびコロンビアは、豚の内臓および副産物などの一部製品について輸入停止措置を講じていたが、米国農務省動植物検疫局（USDA/APHIS）は7月中旬、両国の輸入停止解除を発表した。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	104,153	102,455	▲1.6%	41.8%	616,363	2.3%
日本	36,606	39,664	8.4%	16.2%	266,170	17.0%
韓国	21,263	17,428	▲18.0%	7.1%	158,000	▲5.9%
コロンビア	11,250	16,206	44.1%	6.6%	89,119	2.6%
カナダ	15,589	15,133	▲2.9%	6.2%	104,691	6.0%
中国	16,667	10,033	▲39.8%	4.1%	83,946	▲0.7%
ドミニカ共和国	9,158	9,144	▲0.1%	3.7%	75,082	28.7%
ホンジュラス	5,444	7,310	34.3%	3.0%	43,022	11.6%
その他	33,090	27,652	▲16.4%	11.3%	196,704	▲8.4%
合計	253,220	245,025	▲3.2%	100.0%	1,633,099	3.4%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

(調査情報部)

E U

7月も豚枝肉卸売価格の低迷が続く

26年5月の豚肉生産量は前年同月比
3.5%減

欧州委員会によると、2026年5月の豚肉生産量（EU27カ国）は171万3000トン（前年同月比3.5%減）となり、前年同月をやや下回った（図1、表1）。1頭当たりの枝肉重量が97.21キログラム（同0.5%増）とわずかに増加した一方、豚と畜頭数が1763万頭（同3.9%減）とやや下回ったことが生産量の減少につながった。主要生産国では、ポーランドを除いて減少した。

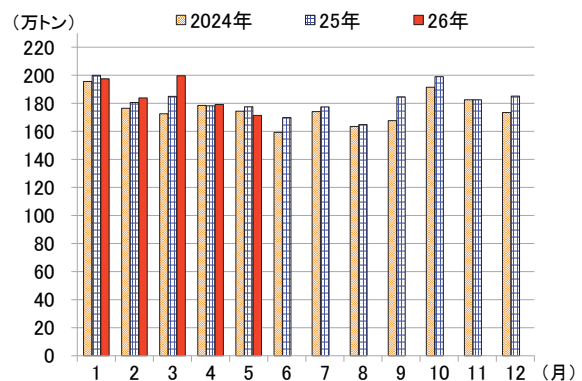
26年累計（1～5月）の生産量は931万4000トン（前年同期比1.1%増）と、第1四半期の生産が好調であったことからわずかに増加しているものの、5月下旬以降、断続的に観測されている熱波により肥育豚の増体に悪影響が生じており、夏季にかけて生産量は

減少傾向で推移するものとみられている（注1）。

また、高温による受胎率の低下が、今後の生産量に及ぼす影響も懸念される。

（注1）詳細については、海外情報「欧州の熱波および干ばつで穀物は減産、物流や飼料供給にも影響（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004422.html）をご参照ください。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

国名	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	44.1	43.0	▲2.5%	234.7	3.6%
ドイツ	34.5	33.3	▲3.5%	179.3	▲1.0%
ポーランド	15.9	16.4	3.1%	84.9	2.7%
フランス	16.5	15.0	▲9.1%	87.0	▲0.5%
デンマーク	11.5	11.0	▲4.3%	62.7	7.0%
イタリア	10.7	10.5	▲1.9%	56.4	0.6%
オランダ	11.4	10.4	▲8.8%	56.7	▲8.0%
その他	32.9	31.8	▲3.4%	169.5	1.6%
合計	177.5	171.3	▲3.5%	931.4	1.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

26年7月の豚枝肉卸売価格は前年同月を大幅に下回る

欧州委員会によると、2026年7月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.51ユーロ（282円：1ユーロ＝187.00円^{（注2）}、前年同月比26.1%安）と、前年同月を大幅に下回った（図2）。

この背景として、熱波による影響が一部に表れているものの、生産性が引き続き向上していることや、アフリカ豚熱（ASF）発生

に伴う他国の輸入制限措置などの影響により、域内の豚肉供給が増加している一方、需要は低迷していることが挙げられている。また、その結果として、在庫水準が高いことも影響しているとの指摘がなされている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

26年6月の豚肉輸出量は前年同月比5.6%増

欧州委員会によると、2026年6月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、16万3797トン（前年同月比5.6%増）とやや増加した（表2）。

アンチダンピング課税の影響が続く中国向け（同35.0%減）、ASF発生に伴うスペインからの輸入停止措置が継続されている日本向け（同10.2%減）などの主要輸出先向けの減少が続いている。一方、自国での家畜疾病の影響などにより生産量が減少している韓国向け（同55.7%増）は、スペインやドイツからの輸出が増加している。

図2 豚枝肉卸売価格の推移

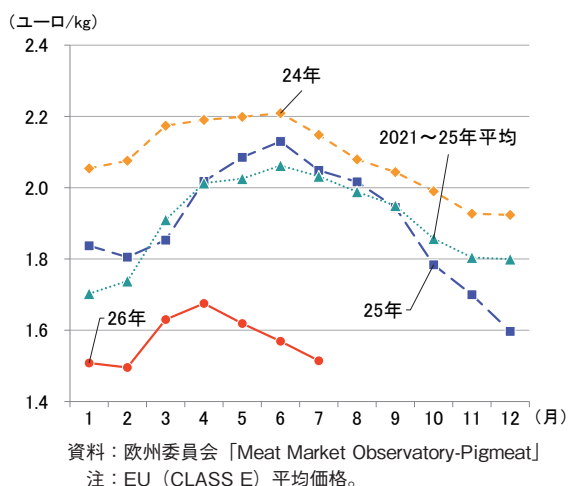


表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
英国	27,028	26,440	▲2.2%	16.1%	151,013	▲8.3%
中国	39,358	25,570	▲35.0%	15.6%	173,300	▲29.5%
韓国	15,068	23,456	55.7%	14.3%	173,455	53.4%
日本	18,494	16,610	▲10.2%	10.1%	103,187	▲22.5%
フィリピン	8,790	6,834	▲22.3%	4.2%	50,526	▲7.7%
その他	46,349	64,887	40.0%	39.6%	405,747	28.1%
合計	155,087	163,797	5.6%	100.0%	1,057,228	2.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部）

中国

豚肉価格は前月比4.3%高と5カ月ぶりに上昇

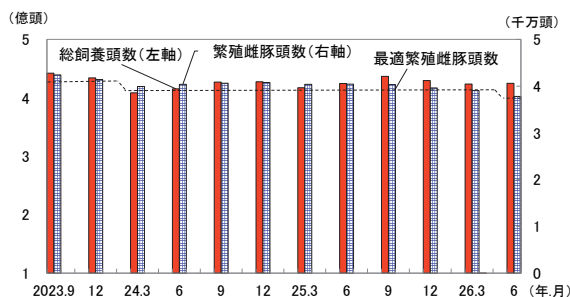
26年6月末の繁殖雌豚頭数は最適水準をわずかに上回る

中国農業農村部によると、2026年6月末時点の繁殖雌豚頭数は、3780万頭（前年同期比6.5%減、前期比3.2%減）と、前年からのかなりの程度、前期からやや減少した（図1）。この頭数は、同部が最適な飼養水準（以下「最適水準」という）とする3750万頭を0.8%上回っている。

26年6月の豚と畜頭数は前年同月比27.1%増

2026年6月の豚と畜頭数は、3820万頭（前年同月比27.1%増）と大幅に増加した（図2）。25年に続き26年上半期のと畜頭数も高水準を維持している。26年上半期（1～6月）の生産量は、3119万トン（前年同期比3.3%増）と前年同期からやや増加した。

図1 豚飼養頭数の推移

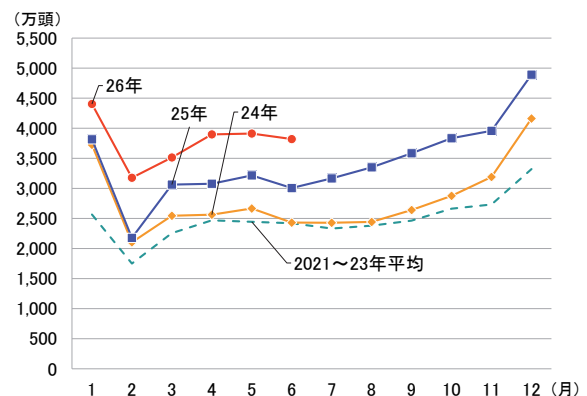


資料：中国国家统计局

注1：四半期ごとの公表値。

注2：2026年5月14日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方案」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を3900万頭程度から3750万頭程度に引き下げた。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

26年7月の豚肉小売価格は前月比4.3%高

2026年7月の豚肉小売価格は、1キログラム当たり20.6元（496円：1元＝24.08円^{（注1）}、前年同月比18.9%安、前月比4.3%高）となった。繁殖雌豚頭数の削減が進んだことを背景に、価格の下落圧力が緩和し、4カ月連続で下落していた豚肉価格が上昇した。

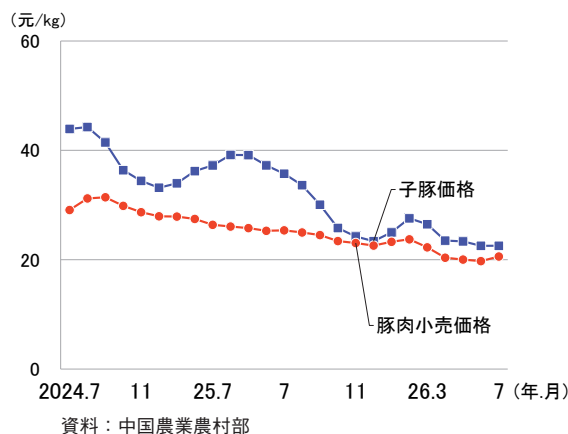
また、豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は、同22.5元（542円、前年同月比36.9%安、前月同）となった。中国農業農村部が26年8月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年7月）」（以下「月報」という）によると、肥育業者が今後の市況を懸念したことで肥育もと豚の補充意欲は回復せず、前月比で横ばいとなった（図3）。

月報は今後の価格について、生産面では、生産能力の削減効果により豚肉市場の供給圧力が緩和されている。また、消費面では、中秋節（9月25～27日）や国慶節（10月1～7日）といった消費の需要期が控えている

ことから、価格は小幅に回復するとしている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

図3 豚肉および子豚価格の推移



26年1～6月の豚肉輸入量は前年同期比28.2%減

2026年1～6月の豚肉輸入量（製品重量ベース）は、38万1188トン（前年同期比28.2%減）と前年同期から大幅に減少した。これを輸入先別に見ると、上位7カ国すべての主要輸入先で前年同期を下回った（表）。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2024年	25年	25年 (1～6月)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	289,907	283,630	152,200	116,255	▲23.6%
ブラジル	236,989	153,564	93,579	52,407	▲44.0%
英国	61,928	71,921	35,196	32,129	▲8.7%
米国	69,929	55,697	35,261	29,415	▲16.6%
チリ	64,730	68,175	37,738	28,768	▲23.8%
カナダ	76,106	66,758	40,387	23,338	▲42.2%
デンマーク	60,771	64,302	30,618	21,883	▲28.5%
その他	189,529	200,511	105,587	76,994	▲27.1%
合計	1,049,889	964,558	530,566	381,188	▲28.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

（調査情報部）

鶏 肉

米 国

26年7月の鶏肉卸売価格は前年同月比9.9%安、供給増で需給が緩和

26年7月の鶏肉生産量、前年同月比4.6%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年7月の鶏肉生産量は、生体重量、処理羽数ともに増加したことから、197万5000トン（前年同月比4.6%増）と

前年同月からやや増加した（表1）。また、26年1～7月の鶏肉生産量についても、1305万2000トン（前年同期比4.2%増）と前年同期からやや増加した。26年の鶏肉生産量についてUSDAは、2250万9000トン（前年比3.4%増）と予測している。

表1 鶏肉生産量の推移

項目	2025年 7月	26年 7月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
生産量（万トン）	188.8	197.5	4.6%	1,305.2	4.2%
処理羽数（百万羽）	836.7	869.7	4.0%	5,720.2	3.2%
生体重量（キログラム/羽）	2.99	3.00	0.3%	3.01	0.7%

資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

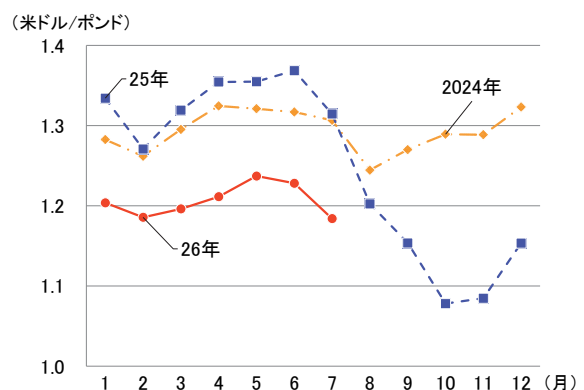
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

26年7月の鶏肉卸売価格、前年同月比9.9%安

USDA/ERSによると、2026年7月の鶏肉卸売価格は、1ポンド当たり1.18米ドル（1キログラム当たり420円：1米ドル＝161.02円^{（注）}、前年同月比9.9%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図）。供給増を背景に需給が緩和し、7月単月としては過去5年間で最も低い水準となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

図 鶏肉の卸売価格の推移



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Domestic Data」

26年6月の鶏肉輸出量、前年同月比2.7%増

USDA/ERSによると、2026年6月の鶏肉輸出量は24万1257トン（前年同月比

2.7%増)と前年同月からわずかに増加した(表2)。最大の輸出先であるメキシコ向けは6万1012トン(同1.9%増)とわずかに増加したほか、アンゴラ向けは同2.6倍、ガーナ向けは同93.2%増とそれぞれ大幅に増加した。一方、キューバ向けは同32.4%減、フィリピン向けは同49.8%減とそれぞれ大幅に減少した。26年1～6月の累計では、主要

輸出先向けが減少したものの、アフリカ向けや小規模市場向けが増加したことから、全体では146万4365トン(前年同期比0.8%増)とわずかに増加した。

26年の輸出量についてUSDAは、国際市場での競合状況や輸出拡大余地が限定的なことから、299万1000トン(前年比1.1%減)とわずかに減少すると予測している。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	59,872	61,012	1.9%	25.3%	343,180	▲2.6%
台湾	16,606	17,692	6.5%	7.3%	78,513	▲20.2%
カナダ	15,540	14,185	▲8.7%	5.9%	85,457	▲3.3%
グアテマラ	10,622	12,347	16.2%	5.1%	69,975	5.6%
アンゴラ	4,669	12,223	161.8%	5.1%	54,564	45.8%
ガーナ	5,819	11,242	93.2%	4.7%	55,565	52.0%
キューバ	15,838	10,711	▲32.4%	4.4%	93,030	▲19.5%
フィリピン	19,707	9,887	▲49.8%	4.1%	83,915	▲15.9%
その他	86,191	91,958	6.7%	38.1%	600,165	7.7%
合計	234,862	241,257	2.7%	100.0%	1,464,365	0.8%

資料：USDA/ERS「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ(鶏足)を除く。

(調査情報部)

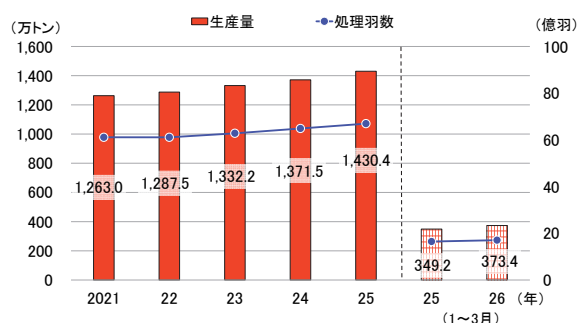
ブラジル

26年の鶏肉生産量および輸出量は増加傾向で推移

26年1～3月の鶏肉生産量は前年同期比6.9%増

ブラジル地理統計院(IBGE)によると、2026年1～3月の鶏処理羽数は17億736万羽(前年同期比3.6%増)、鶏肉生産量は373万4000トン(同6.9%増)と、いずれも過去最大を記録した前年を上回る水準で推移している(図1)。

図1 鶏肉生産量および処理羽数の推移



資料：IBGE「Pesquisa Trimestral do Abate de Animais」

26年1～8月の鶏肉卸売価格は前年より低い水準で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所 (CEPEA) によると、直近 (2026年 8月 17日時点) のブラジルの鶏肉卸売価格 (サンパウロ州) は、1 キログラム当たり 7.18 レアル (223円：1 レアル＝ 31.08円^(注1)、前年同期比 2.4% 安) となった (図 2)。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格 (丸鶏・冷蔵) の日毎の推移



資料：CEPEA「PREÇOS DO FRANGO RESFRIADO」
注1：名目価格。
注2：図中の最新のマーカーは、2026年 8月 17日時点の 1kg 当たり 7.18 レアルを示す。

26年中盤の鶏肉卸売価格は、5 月に国内外の需要が増加したことに加え、燃料価格の

高騰により輸送コストが膨らんだことから、一時的に押し上げられた。6 月以降は小幅な値動きをしつつも、おおむね横ばいで推移したが、7 月下旬は学校の冬期休暇に当たり、学校給食向け需要が減少したことから、一時的に下落した。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年 8 月末 TTS 相場および現地参考為替相場 (Selling)。

26年1～7月の鶏肉輸出量は前年同期比 14.8% 増

ブラジル開発商工サービス省貿易局 (SECEX) によると、2026年 1～7 月の鶏肉輸出量は 315 万 7896 トン (前年同期比 14.8% 増) と前年同期をかなり大きく上回った (表)。中でも、5～7 月の各月の輸出量は前年同月から 3～4 割程度増加し、大幅な伸びを示した。ブラジル動物性タンパク質協会 (ABPA) は、その背景として、25 年 5 月に同国で発生した高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の影響による輸出量の落ち込みに対する反動を挙げている。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2025年 (1～7月)			26年 (1～7月)			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
中国	226,417	541,322	2.39	355,824	897,486	2.52	57.2%	65.8%	5.5%
日本	239,574	485,751	2.03	278,243	722,845	2.60	16.1%	48.8%	28.1%
サウジアラビア	233,342	568,781	2.44	253,485	609,482	2.40	8.6%	7.2%	▲1.4%
アラブ首長国連邦	282,346	561,603	1.99	252,246	495,643	1.96	▲10.7%	▲11.7%	▲1.2%
南アフリカ	134,422	87,467	0.65	211,367	122,283	0.58	57.2%	39.8%	▲11.1%
フィリピン	123,292	105,251	0.85	159,603	135,120	0.85	29.5%	28.4%	▲0.8%
メキシコ	122,759	297,200	2.42	139,570	305,389	2.19	13.7%	2.8%	▲9.6%
韓国	82,325	155,101	1.88	121,950	267,282	2.19	48.1%	72.3%	16.3%
その他	1,305,139	2,135,762	1.64	1,385,608	2,312,678	1.67	6.2%	8.3%	2.0%
合計	2,749,615	4,938,238	1.80	3,157,896	5,868,208	1.86	14.8%	18.8%	3.5%

資料：SECEX「COMEX STAT」
注1：HSコード 0207.11、0207.12、0207.13、0207.14 の合計。
注2：輸出量は製品重量ベース。

26年8月末時点で、日本は同国でのHPAI発生地域であるパラ州およびリオグランデ・ド・スル州の一部地域からの家きん肉などの輸入を停止している^(注2)。なお、25年のHPAI発生前である24年の日本向け輸出量の州別割合は、パラ州産の実績は無く、リオグランデ・ド・スル州産（輸入停止地域を

含む同州全体）も日本向け輸出量全体の7％程度にとどまっている。

（注2）「生きた家きん、家きん肉等の輸入停止及び停止解除措置について（農林水産省動物検疫所）」
(<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html#burazilkakinniku>)

（調査情報部）

中国

26年の鶏肉生産量は前年比4.8%増とやや増加見込み

26年の家きん肉生産量は前年同期比9.4%増

中国国家统计局によると、2026年上半年期の家きん総出荷羽数は87億6000万羽（前年同期比7.6%増）、家きん肉生産量は1390万トン（同9.4%増）と、いずれも前年をかなりの程度上回った。また、同年6月末の家きん飼養羽数は、63億5000万羽（同0.3%増）となった。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の直近見通しによると、26年の中国の鶏肉生産量^(注1)は、1730万トン（前年比4.8%増）と前年からやや増加すると見込まれている（表1）。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」(<https://www.alic.go.jp/content/001177622.pdf>) P.102をご参照ください。

表1 中国の鶏肉需給量

（単位：万トン）

項目	2023年	24年	25年	26年 (予測)
生産量	1,480	1,535	1,650	1,730
輸入量	76	48	30	25
輸出量	55	77	109	140
国内消費量	1,500	1,506	1,571	1,615

資料：USDA/FAS

注：もみじ（鶏足）は含まない。

26年7月の鶏肉市場価格は前年同期比0.4%安

中国農業農村部によると、2026年7月の鶏肉市場価格は、1キログラム当たり22.3元（537円：1元＝24.08円^(注2)、前年同

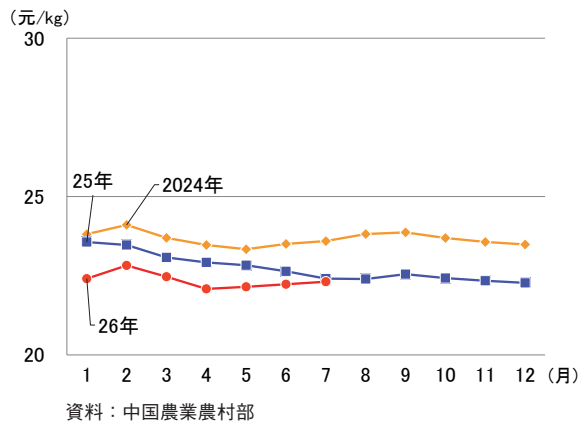
期比0.4%安、前月比0.4%高）と前月からわずかに上昇した（図）。

今後の価格について、中国農業農村部が26年8月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年7月）」（以下「月報」という）は、鶏肉生産量が安定基調であることに加え、

中秋節（9月25～27日）と国慶節（10月1～7日）といった需要期が控えていることから、短期的には小幅に上昇するとしている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

図 鶏肉市場価格の推移



26年1～6月の鶏肉輸入量は前年同期比29.6%減

2026年1～6月の冷凍鶏肉輸入量は、30万2996トン（前年同期比29.6%減）と前年同期を大幅に下回った（表2）。輸入先別に見ると、上位4カ国すべてが前年同期を下回った。

また、26年1～6月の冷凍鶏肉輸出量は、ロシア向けなどを中心に40万1788トン（同86.9%増）と前年同期比で大幅に増加した。現地報道によると、中国は同年1月27日、タイに対して冷凍家さん肉などの輸出を要請したとされており、今後タイ政府によって審査が進められる見込みである。中国では国内生産力の向上を背景に供給量が増加しており、輸入依存度の低下と輸出拡大の動きが見られる。

表2 輸入先別冷凍鶏肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2022年	23年	24年	25年	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	553,287	679,184	557,734	291,570	222,668	▲17.2%
ロシア	126,505	126,973	128,215	143,964	45,764	▲37.7%
タイ	84,539	116,233	112,539	95,028	23,697	▲58.5%
チリ	20,407	8,167	236	9,203	4,765	▲3.1%
その他	506,327	351,944	126,748	52,128	6,102	▲76.5%
合計	1,291,065	1,282,501	925,472	591,893	302,996	▲29.6%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

26年1～6月の鶏肉調製品輸出量は前年同期比20.4%増

2026年1～6月の鶏肉調製品の輸出量

は、23万6189トン（前年同期比20.4%増）と前年同期を大幅に上回り、日本向けを中心として、前年に引き続き高水準を維持している（表3）。

表3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2022年	23年	24年	25年	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
日本	193,109	172,371	185,400	201,465	115,496	19.9%
英国	18,442	25,432	37,548	49,991	35,471	55.0%
香港	37,945	37,579	42,251	46,197	24,610	11.5%
オランダ	18,395	20,426	31,197	36,910	21,792	0.9%
その他	37,484	43,776	57,972	75,453	38,820	16.7%
合計	305,375	299,584	354,368	410,017	236,189	20.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部)

牛乳・乳製品

E U

26年上半期、主要な乳製品輸出量が前年同期を上回る

26年上半期の生乳出荷量は前年同期比3.6%増

欧州委員会によると、2026年6月の生乳出荷量（EU27カ国）は1297万トン（前年

同月比2.4%増）となった（表1）。主要生産国の多くで前年同月を上回った一方、フランスでは熱波や干ばつなどの影響により減少した。

同年上半期（1～6月）の生乳出荷量

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	270	286	5.8%	1,725	6.5%
フランス	201	198	▲ 1.2%	1,269	2.6%
オランダ	114	125	9.9%	733	5.8%
ポーランド	116	120	3.3%	719	3.3%
アイルランド	111	108	▲ 3.2%	473	▲ 1.3%
その他	454	460	1.2%	2,821	2.9%
合計	1,267	1,297	2.4%	7,739	3.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

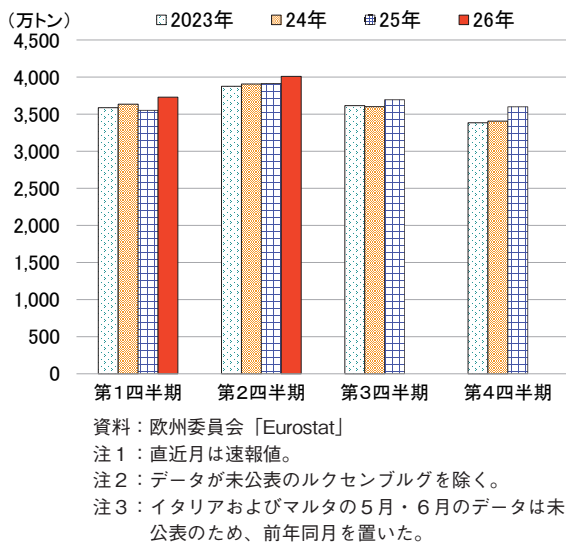
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

注4：イタリアおよびマルタの5月・6月のデータは未公表のため、前年同月を置いた。

(EU27カ国)は、1) 比較的安価な飼料価格と良好な牧草環境、2) 25年を通じて高水準で推移した乳価を受けたより生産性の高い経産牛への更新、3) 乳用牛と畜頭数の減少などを背景に、前年同期比3.6%増となった(図1)。なお、第1四半期(1～3月)は同5.0%増であったが、第2四半期(4～6月)は同2.4%増と、増加率が鈍化した。特にアイルランドでは、第2四半期の各月で前年同月を下回っており、現地報道は、同国の天候条件により牧草の生育が順調でなかったことが要因としている。

図1 生乳出荷量の推移

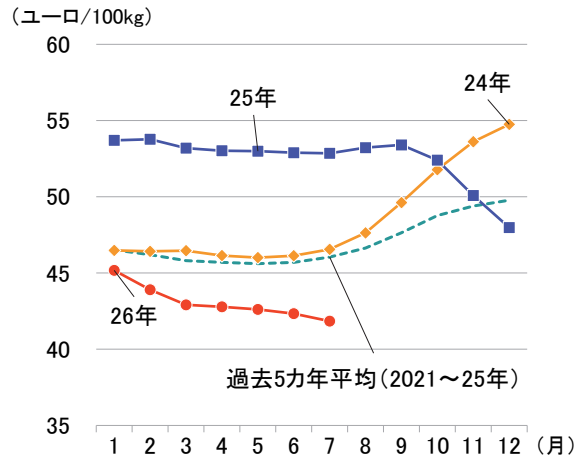


26年7月の生乳取引価格、直近4カ月は横ばいで推移

欧州委員会によると、2026年7月の生乳取引価格(EU27カ国平均)は100キログラム当たり41.84ユーロ(1キログラム当たり78円：1ユーロ＝187.00円^(注)、前年同月比20.8%安)と、前年同月を大幅に下回った(図2)。主要乳製品の価格が下落基調から一服し、上昇基調で推移したことなどから、4月以降は緩やかな下落傾向で推移している。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

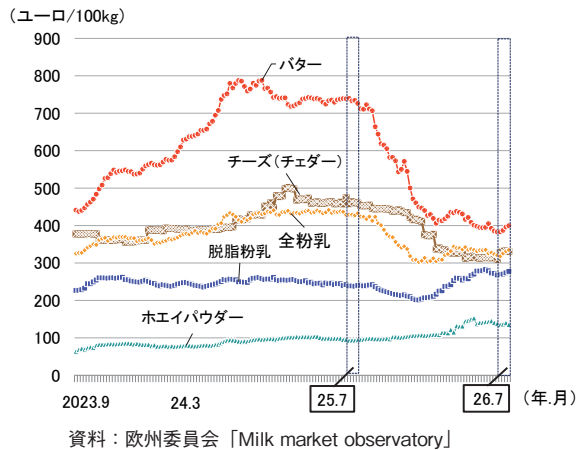
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

26年7月の主要乳製品価格、上昇に転じる

欧州委員会によると、2026年7月26日の週の乳製品価格(EU27カ国平均)は、脱脂粉乳は100キログラム当たり278ユーロ(1キログラム当たり520円、前年同期比15.7%高)と前年同期を上回った。一方、バターは同400ユーロ(同748円、同45.0%安)、全粉乳は同335ユーロ(同626円、同22.6%安)、チーズは同331ユーロ(同619円、同28.1%安)といずれも前年同期を大幅に下回ったものの、前月末以降は上昇傾向で推移している(図3)。

現地報道によると、バター価格は生乳出荷量の増加ペースの鈍化傾向に下支えされており、今後についても、価格の下落は一定程度抑制されるとみられている。

図3 乳製品価格の推移



26年上半期の主要な乳製品輸出量は前年より増加

欧州委員会によると、2026年上半期（1～6月）のEU域外向け乳製品輸出量は、

バターは前年同期比38.2%増、脱脂粉乳は同16.3%増、チーズは同5.8%増、全粉乳は同6.9%増といずれも前年同期を上回った（表2）。この背景には、生乳出荷量の増加に伴う乳製品の供給増に加え、世界的な乳製品需要の高まりがあるとみられる。

品目別に見ると、バターは、アイルランド産グラスフェッドバターの輸出が拡大する米国向け、高級ベーカリー製品や洋食レストラン向け需要が伸びる中国向けが下支えしているとされる。

また、脱脂粉乳については、イエメン向けの輸出が大幅に増加した。現地報道によると、主要食料の多くを輸入に依存する同国では、脱脂粉乳を含む乳製品も需要の大部分が輸入によって賄われているとされている。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

（単位：トン）

バター				脱脂粉乳			
輸出先	2025年 (1～6月)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	25年 (1～6月)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
米国	29,415	37,845	28.7%	アルジェリア	58,370	51,315	▲12.1%
英国	23,476	24,724	5.3%	エジプト	22,318	41,868	87.6%
中国	8,156	11,452	40.4%	インドネシア	27,402	35,731	30.4%
トルコ	333	7,490	2149.2%	イエメン	4,776	27,137	468.2%
韓国	6,594	6,824	3.5%	マレーシア	19,832	26,959	35.9%
その他	47,283	70,962	50.1%	その他	267,102	281,794	5.5%
合計	115,257	159,297	38.2%	合計	399,800	464,804	16.3%

チーズ				全粉乳			
輸出先	25年 (1～6月)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	25年 (1～6月)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
英国	226,363	233,220	3.0%	オマーン	25,400	24,390	▲4.0%
米国	67,122	66,996	▲0.2%	英国	6,960	8,768	26.0%
日本	41,004	50,532	23.2%	クウェート	7,983	6,192	▲22.4%
スイス	38,110	38,976	2.3%	中国	5,309	5,591	5.3%
韓国	31,088	26,734	▲14.0%	サウジアラビア	2,381	4,213	76.9%
その他	286,180	313,169	9.4%	その他	40,338	45,325	12.4%
合計	689,867	729,627	5.8%	合計	88,371	94,479	6.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

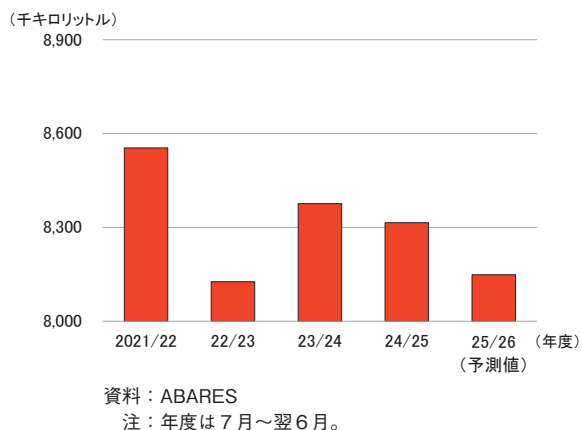
（調査情報部）

25/26年度の生乳生産量はわずかに減少予測

25/26年度の生乳生産量、前年度比2.0%減の予測

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が2026年6月に公表した「Agricultural Commodities Report」によると、25/26年度（7月～翌6月）の生乳生産量は、814万8720キロリットル（839万3182トン相当、前年度比2.0%減）とわずかに減少すると予測されている（図1）。

図1 年度別生乳生産量の推移



また、ABARESは、26/27年度の生乳生産量について、飼料、肥料および燃料価格といった生産コスト増加の影響などを背景に、乳用牛飼養頭数が減少していることなどから、805万8872キロリットル（830万0638トン相当、同1.1%減）とわずかに減少すると見込んでいる。

一方、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）が同年7月に公表した「Dairy: World Markets and Trade」は、26年（1～12月）の豪州の生乳生産量を870万トン（845万キロリットル相当、前年比2.4%増）とわず

かに増加すると見込んでいる。この理由としてUSDA/FASは、26年1～5月の生乳生産量が堅調に推移していることに加え、主要酪農地域である豪州南部で秋季（3～5月）の降雨により牧草生育が良好であることを挙げている。一方で、エルニーニョ現象による少雨の影響で牧草の生育が抑制された場合には、生乳生産量の伸びは鈍化する可能性があるとしている。

26年6月の主要乳製品の輸出量、バターおよびバターオイルを除き増加

デイリー・オーストラリア（DA）が2026年8月に公表した「Dairy Export Summary」によると、同年6月の主要乳製品の輸出量は、バターおよびバターオイルを除き前年同月から増加した。一方、25/26年度の累計輸出量は、いずれも前年度から減少した（表、図2）。

脱脂粉乳は、中国や東南アジア向けが減少したものの、インドネシアやベトナム向けが大幅に増加したことにより、前年同月比2.2%増とわずかに増加した。全粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けが減少したものの、タイやベトナム、香港向けが増加したことにより、同0.5%増とわずかに増加した。バターおよびバターオイルは、中国や韓国、台湾向けが大幅に減少したことにより、同62.2%減と大幅に減少した。また、チーズは、韓国や台湾向けが減少したものの、輸出量全体に占める割合が高い日本向けやマレーシア、サウジアラビア向けが増加したことにより、同9.3%増とかなりの程度増加した。

表 乳製品輸出品の推移

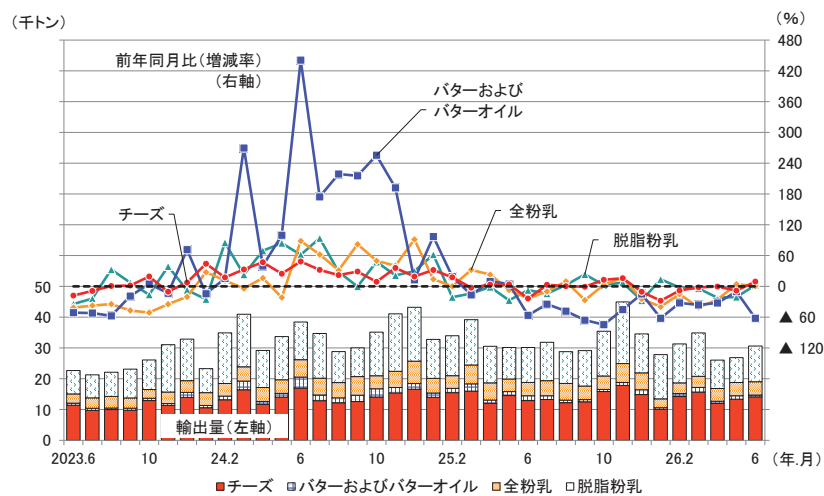
(単位：トン)

品目	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7月～翌6月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	11,347	11,594	2.2%	151,512	▲4.1%
全粉乳	4,306	4,329	0.5%	53,458	▲14.1%
バターおよびバターオイル	1,567	592	▲62.2%	11,348	▲45.4%
チーズ	12,908	14,105	9.3%	165,837	▲1.6%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部)

N Z

生乳生産量は7月として過去最高を記録

26年7月の生乳生産量、前年同月比7.0%増

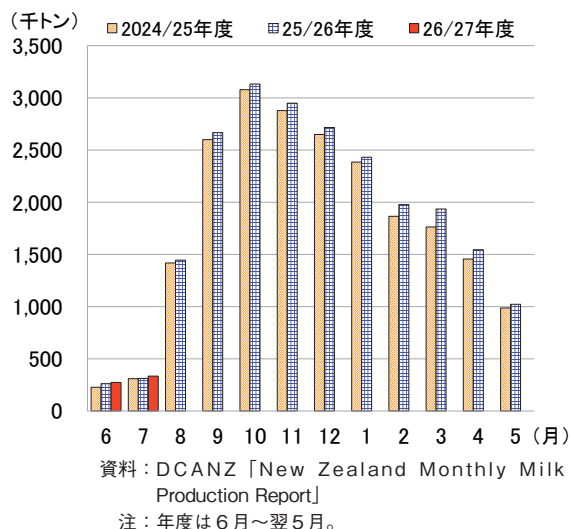
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年7月の生乳生産量は33万5000トン（前年同月比7.0%増）と、7月としては過去最高を記録し、15カ月連続で前年同月を上回った（図1）。また、26/27年度（6月～翌5月）の7月までの生乳生産量も、60万9000トン（前年同期比5.9%増）

と前年同期を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、良好な牧草生育環境を背景に飼養頭数や酪農場数が増加し、生乳生産を押し上げたものと分析している。

今後の生乳生産についてNZXは、温暖な気候により当面は安定的に推移すると見込む一方、エルニーニョ現象に伴う牧草生育環境の変化が生産動向に及ぼす影響を懸念している。

図1 生乳生産量の推移



26年7月の乳製品輸出量、主要4品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年7月の乳製品輸出量は、バターおよびバターオイルは前年並みであったものの、主要4品目でいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、脱脂粉乳はフィリピン、インドネシア向け、全粉乳はマレーシア、アラブ首長国連邦向け、バターおよびバターオイル、チーズは中国向けがいずれも大幅に増加した。また、26/27年度の7月までの乳製品輸出量も、主要4品目とも前年同期を上回って推移している。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

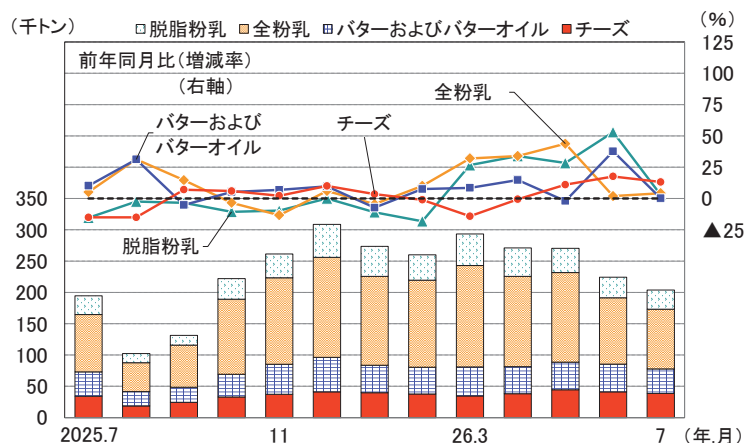
品目	2025年 7月	26年 7月	前年同月比 (増減率)	26/27年度 (6～7月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	29,911	30,758	2.8%	63,689	23.8%
全粉乳	91,530	95,395	4.2%	201,317	3.0%
バターおよびバターオイル	38,918	38,970	0.1%	83,384	17.1%
チーズ	34,208	38,715	13.2%	79,730	15.4%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注：製品重量ベース。

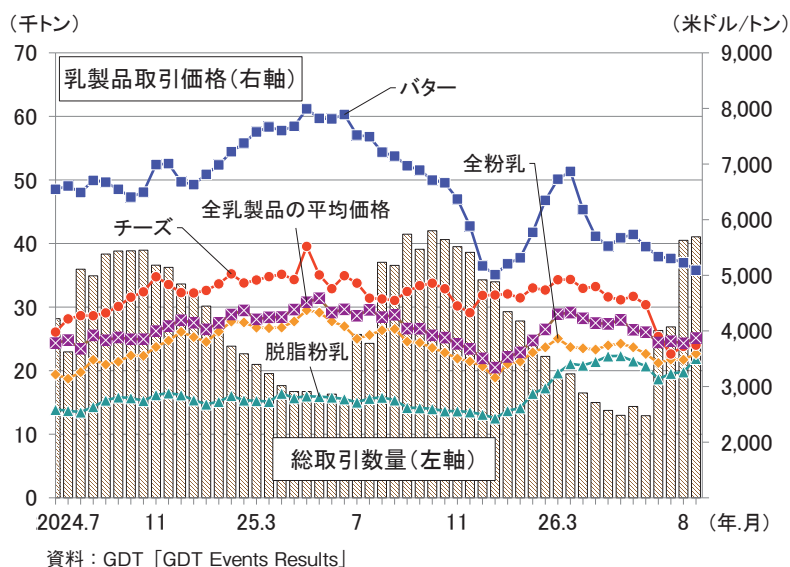
26年8月18日のGDT平均取引価格、 主要3品目が前回を上回る

2026年8月18日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目のうちバターを除く3品目が前回開催時(26年8月4日)を上回った(図3)。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3873米ドル(62万3630円、1米ドル＝161.02円^(注2)、前回比2.5%高)とわずかに上昇した。

NZXによると、NZなど主要乳製品生産国での堅調な生産により供給が増加した一方で、欧州や米国で続く熱波が今後の供給拡大を抑制するとの懸念が、乳製品相場を下支える要因となったとしている。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部)

飼料穀物

世界

26/27年度の期末在庫は、前月から引き続き下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年8月12日、26/27年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は、12億9888万トン（前年度比2.3%減）と前月から179万トン上方修正された。EUの下方修正を米国、ロシア、ウクライナ、ザンビアなどの上方修正が上回ったことによる。

輸入量は、世界全体で2億373万トン（同3.3%増）と前月から27万トン下方修正された。EUの上方修正を中国やトルコなどの下方修正が上回ったことによる。

消費量は、世界全体で13億2305万トン（同0.4%減）と前月から256万トン上方修正された。EUの下方修正をブラジルやロシアなどの上方修正が上回ったことによる。これにより、前月に引き続き生産量を上回るとされている。

輸出量は、世界全体で2億1048万トン（同4.6%減）と前月から60万トン上方修正された。EU、ウクライナなどの下方修正を米国の上方修正が上回ったことによる。

この結果、期末在庫は、2億7466万トン（同8.1%減）と前月から60万トン下方修正された。消費量および輸出量の上方修正が生産量の上方修正を上回ったことによる。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2026年8月12日米国農務省公表)

(単位: 万トン)

国名	2024/25年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(7 月 予測)	(8 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	4,479	3,940	5,131	4,940	25.4%
	生産量	37,827	43,234	40,642	40,675	▲5.9%
	輸入量	55	71	64	64	▲9.9%
	消費量	31,124	33,669	33,161	33,161	▲1.5%
	輸出量	7,297	8,636	8,128	8,319	▲3.7%
	期末在庫	3,940	4,940	4,546	4,198	▲15.0%
ブラジル	期首在庫	735	1,160	1,230	1,330	14.7%
	生産量	13,600	14,000	13,900	13,900	▲0.7%
	輸入量	176	170	180	180	5.9%
	消費量	9,150	9,800	9,800	10,000	2.0%
	輸出量	4,201	4,200	4,400	4,400	4.8%
	期末在庫	1,160	1,330	1,110	1,010	▲24.1%
アルゼンチン	期首在庫	246	530	471	471	▲11.1%
	生産量	4,900	6,300	5,500	5,500	▲12.7%
	輸入量	1	1	1	1	0.0%
	消費量	1,710	1,860	1,770	1,770	▲4.8%
	輸出量	2,907	4,500	3,800	3,800	▲15.6%
	期末在庫	530	471	401	401	▲14.9%
ウクライナ	期首在庫	54	84	225	225	167.9%
	生産量	2,680	3,090	3,000	3,180	2.9%
	輸入量	2	1	1	1	0.0%
	消費量	650	650	720	720	10.8%
	輸出量	2,002	2,300	2,300	2,200	▲4.3%
	期末在庫	84	225	206	486	116.0%
E U	期首在庫	726	615	508	595	▲3.3%
	生産量	5,959	5,680	5,378	5,020	▲11.6%
	輸入量	1,876	1,850	2,250	2,350	27.0%
	消費量	7,670	7,340	7,440	7,300	▲0.5%
	輸出量	276	210	190	160	▲23.8%
	期末在庫	615	595	506	505	▲15.1%
中国	期首在庫	21,119	19,193	17,715	17,715	▲7.7%
	生産量	29,492	30,124	30,700	30,700	1.9%
	輸入量	182	400	600	500	25.0%
	消費量	31,600	32,000	32,500	32,400	1.3%
	輸出量	0	2	2	2	0.0%
	期末在庫	19,193	17,715	16,513	16,513	▲6.8%
世界計	期首在庫	31,384	29,670	29,867	29,883	0.7%
	生産量	123,406	132,991	129,709	129,888	▲2.3%
	輸入量	18,625	19,725	20,400	20,373	3.3%
	消費量	125,120	132,778	132,049	132,305	▲0.4%
	輸出量	18,758	22,073	20,988	21,048	▲4.6%
	期末在庫	29,670	29,883	27,526	27,466	▲8.1%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注: 各国の穀物年度 米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

(調査情報部)

生産量、消費量ともに上方修正、 大豆期末在庫は微減の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年8月12日、26/27年度の

世界の大豆需給予測値を更新した（表）。
これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億4225万トン（前年度比3.0%増）と

表 主要国の大豆需給見通し（2026年8月12日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名	2024/25年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(7 月 予 測)	(8 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	932	884	898	885	0.1%
	生産量	11,905	11,599	12,179	12,299	6.0%
	輸入量	81	68	68	68	0.0%
	消費量	6,655	7,226	7,484	7,566	4.7%
	輸出量	5,150	4,137	4,518	4,518	9.2%
	期末在庫	884	885	844	871	▲1.6%
ブラジル	期首在庫	2,976	3,769	3,769	3,769	0.0%
	生産量	17,250	18,050	18,600	18,600	3.0%
	輸入量	73	90	80	80	▲11.1%
	消費量	5,816	6,200	6,500	6,500	4.8%
	輸出量	10,314	11,500	11,800	11,800	2.6%
	期末在庫	3,769	3,769	3,689	3,689	▲2.1%
アルゼンチン	期首在庫	2,405	2,467	2,382	2,382	▲3.4%
	生産量	5,111	4,950	5,000	5,000	1.0%
	輸入量	632	705	650	650	▲7.8%
	消費量	4,324	4,200	4,300	4,300	2.4%
	輸出量	787	900	620	645	▲28.3%
	期末在庫	2,467	2,382	2,422	2,422	1.7%
中国	期首在庫	4,331	4,449	4,437	4,436	▲0.3%
	生産量	2,065	2,090	2,100	2,100	0.5%
	輸入量	10,800	11,300	11,500	11,500	1.8%
	消費量	10,350	10,900	11,100	11,100	1.8%
	輸出量	7	13	10	10	▲23.1%
	期末在庫	4,449	4,436	4,427	4,426	▲0.2%
世界計	期首在庫	11,510	12,595	12,533	12,512	▲0.7%
	生産量	42,811	42,946	44,170	44,225	3.0%
	輸入量	17,915	18,717	18,927	18,927	1.1%
	消費量	35,916	37,392	38,417	38,476	2.9%
	輸出量	18,433	18,719	19,041	19,041	1.7%
	期末在庫	12,595	12,512	12,417	12,421	▲0.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

前月から55万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億8600万トン（同3.0%増）と前月から据え置かれた。これに次ぐ米国は、作付面積の増加などから1億2299万トン（同6.0%増）と前月から120万トン上方修正されたものの、ウクライナの作付面積の減少による下方修正が米国の上方修正の一部を相殺した。

輸入量は、世界全体で1億8927万トン（同1.1%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸入国である中国は1億1500万トン（同1.8%増）と同じく前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億8476万トン（同2.9%増）と前月から59万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は前月から据え置かれたものの、これに次ぐ米国は大豆かすや大豆油の需要増加などにより、7566万トン（同4.7%増）と前月から82万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億9041万トン（同1.7%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジル、これに次ぐ米国はいずれも前月から据え置かれた。アルゼンチンは645万トン（同28.3%減）と前月から25万トン上方修正されたが、ウクライナの下方修正がこれを相殺した。

この結果、期末在庫は、世界全体で1億2421万トン（同0.7%減）と前月から4万トン上方修正されたものの、前回予測に引き続き前年度比ではわずかな減少が見込まれている。

なお、今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した26/27年度の同国の大豆輸入量9550万トンとUSDAの予測には、引き続き1950万トンの乖離^{かいり}がある。

（調査情報部）

米 国

米国の26/27年度の期末在庫は前月に引き続き下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年8月12日、26/27年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

生産量は、収穫面積の上方修正により前月から上方修正されたものの、単収の下方修正が影響し、160億1300万ブッシェル（4億675万トン^{注1}、前年度比5.9%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。

消費量は前月から据え置かれたものの、130億5500万ブッシェル（3億3161万トン、同1.5%減）と前年度からわずかな減少

が見込まれている。

輸出量は前月から上方修正されたものの、32億7500万ブッシェル（8319万トン、同3.7%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は前月に引き続き下方修正され、16億5300万ブッシェル（4199万トン、同15.0%減）と前年度からかなり大きく減少すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）も、10.1%（同1.6ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1 ブッシェル当たり4.50米ドル（725円。1 キログラム当たり29円：1 米ドル＝161.02円^{（注2）}、同8.4%高）と前年度からかなりの程度上昇すると見込まれている。

なお、米国農務省全国統計局（USDA/NASS）によると、26年8月30日時点のトウモロコシ主要生産18州^{（注3）}の作柄割合^{（注4）}は「Good」が44%（25年8月31日時点50%）、「Excellent」が13%（同19%）の

計57%（同69%）と前年同期に比べ12ポイント下回った。

（注1）1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

（注3）コロラド州、イリノイ州、インディアナ州、アイオワ州、カンザス州、ケンタッキー州、ミシガン州、ミネソタ州、ミズーリ州、ネブラスカ州、ノースカロライナ州、ノースダコタ州、オハイオ州、ペンシルベニア州、サウスダコタ州、テネシー州、テキサス州、ウィスコンシン州の18州。

（注4）「Very Poor」、「Poor」、「Fair」、「Good」、「Excellent」の5段階評価。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年8月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2024/25 年度	25/26 年度 (推計値)	26/27年度			前年度比 (増減率)
				(7月予測)	(8月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(万エーカー)	9,090	9,880	9,530	9,670	3,913（万ヘクタール）	▲2.1%
収穫面積	(万エーカー)	8,300	9,130	8,740	8,860	3,586（万ヘクタール）	▲3.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	179	187	183	181	11（トン/ヘクタール）	▲3.1%
期首在庫	(万ブッシェル)	176,300	155,100	202,000	194,500	4,940（万トン）	25.4%
生産量	(万ブッシェル)	1,489,200	1,702,100	1,600,000	1,601,300	40,675（万トン）	▲5.9%
輸入量	(万ブッシェル)	2,200	2,800	2,500	2,500	64（万トン）	▲10.7%
総供給量	(万ブッシェル)	1,667,700	1,860,000	1,804,500	1,798,300	45,679（万トン）	▲3.3%
国内消費量	(万ブッシェル)	1,225,300	1,325,500	1,305,500	1,305,500	33,161（万トン）	▲1.5%
飼料等向け	(万ブッシェル)	543,800	635,000	610,000	610,000	15,495（万トン）	▲3.9%
食品・種子・その他工業向け	(万ブッシェル)	681,500	690,500	695,500	695,500	17,666（万トン）	0.7%
うちエタノール向け	(万ブッシェル)	543,600	555,000	560,000	560,000	14,225（万トン）	0.9%
輸出量	(万ブッシェル)	287,300	340,000	320,000	327,500	8,319（万トン）	▲3.7%
総消費量	(万ブッシェル)	1,512,600	1,665,500	1,625,500	1,633,000	41,480（万トン）	▲2.0%
期末在庫	(万ブッシェル)	155,100	194,500	179,000	165,300	4,199（万トン）	▲15.0%
期末在庫率	(%)	10.3	11.7	11.0	10.1		1.6ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.24	4.15	4.40	4.50	28.53（円/kg）	8.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 ブッシェルは約25.401キログラム、1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

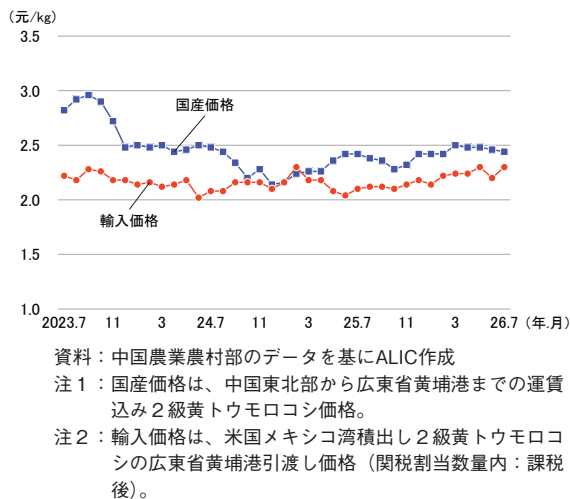
（調査情報部）

トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年7月の国産トウモロコシ価格は
わずかに下落

中国農業農村部は2026年8月26日、「農産物需給動向分析月報（2026年7月）」を公表した。この中で、同年7月の国産トウモロコシ価格はわずかに下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給について、1）東北部や華北地域の主産地で天候に恵まれ、生育が順調に推移したこと、2）こうりゃんや大麦などの代替飼料が十分に供給されていること、3）コーンスターチ製造企業など工業用の消費が弱含みで推移したことにより需給が一時的に緩和し、価格が下落したと報告されている。今後の見通しについて、南部産新穀の出荷が進む一方で、飼料用や工業用の需要が限定的であるため、需給は一時的に緩和し、短期的な国産トウモロコシ価格は、安定基調からやや弱含みで推移すると見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移

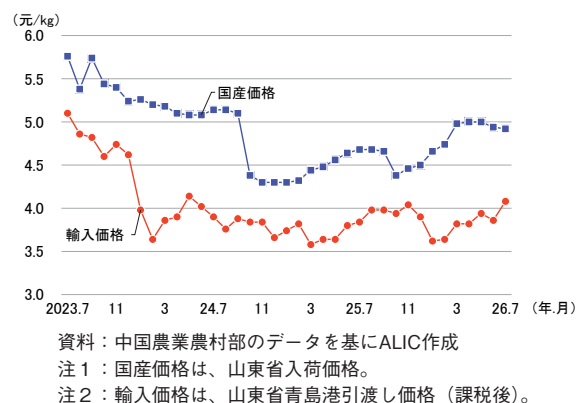


輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、26年7月が1キログラム当たり2.30元（55円：1元＝24.08円^注、前月比4.5%高）とやや上昇した。一方で、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.44元（59円、前月比0.8%安）とわずかに下落したこと、輸入と国産の価格差は縮小した。

26年7月の国産大豆価格もわずかに
下落

2026年7月の国産大豆価格も国産トウモロコシ同様、わずかに下落した（図2）。同月の大豆需給について、1）大豆製品の消費が季節的に閑散期で、高温多湿の天候も重なり末端需要が低調であったこと、2）東北部産および^{こうわいかい}黄淮海地域産新穀の生育がおおむね良好であったこと、3）競売された国家備蓄大豆の市場供給が継続されたことにより、市場の需給は一時的に緩和したためと報告されている。今後、短期的な国産大豆価格は、8月下旬頃から、学校給食の開始に向けて

図2 大豆価格の推移



大豆製品の需要増加が見込まれる一方、国家備蓄大豆の競売による市場供給も継続されるため、新穀出荷が始まるまでは安定基調で推移すると見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省こくりゅうこうの食用向け国産大豆平均取引価格は、26年7月が1キログラム当たり4.56元（110円、前年同月比11.8%高）とかなり大きく上昇したものの、前月比ではわずかな下落となった。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省さんとうの国産大豆価格は、同4.92元（118円、同5.2%高）とやや上昇したものの、前月比ではわずかな下落となった。一方で、同月の輸入大豆価格は同4.08元（98円、前月比5.7%高）とやや上昇したことから、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する中国の大豆輸入量は、前年をわずかに上回る水準となっている。26年（1～6月）の輸入量は、5048万9700トン（前年同期比2.3%増）とわずかに増加した。また、輸入額も、同8.6%増の239億1400万米ドル（3兆8506億円：1米ドル＝161.02円）とかなりの程度増加したと報告されている。主な輸入先は、ブラジル（総輸入量の68.8%）、米国（同19.0%）アルゼンチン（同7.3%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年8月末TTS相場。

（調査情報部）